

WiseMo.ini 設定項目

1.0 背景情報

Windows ホストおよびゲストプログラムの動作上の問題を回避したり、通常とは異なる動作を調整・強制したりする場合、Windows ホスト/ゲストプログラムの共通設定ファイルである WiseMo.ini ファイルに特定の設定を記述することができます。

WiseMo.ini ファイルの編集は上級者向けの操作であり、通常は WiseMo または WiseMo パートナーからの指示がある場合にのみ行うべきです。

1.1 前提

WiseMo.ini ファイルは、Windows 上で動作する WiseMo ゲストおよびホストモジュールによって使用されます。これには、サポート対象ブラウザに組み込まれた WiseMo ActiveX コンポーネントおよび NPAPI コンポーネントが含まれます。なお、Chrome コンポーネントはサポート対象外です。

WiseMo.ini はテキスト形式のファイルで、キーボードの「Windows キー」+「R」を押し、表示される「ファイル名を指定して実行」ダイアログに「WiseMo.ini」と入力するだけで開くことができます。通常、このファイルはオペレーティングシステムによって保護されているため、管理者権限なしで保存することはできません。WiseMo.ini ファイルを編集する推奨方法は、スタートメニューでメモ帳を検索し、右クリックして「管理者として実行」を選択してください。メモ帳が起動したら、メニューから「ファイル」>「開く」を選択し、「C:\Windows」フォルダーに移動して WiseMo.ini を開いてください。これで変更内容を「ファイル」>「保存」で保存できるようになります。

1.2 はじめに

WiseMo.ini ファイルは標準的な Windows 形式の ini ファイルです。角括弧で囲まれた複数のセクションが含まれています（例：[DTL]）。

各セクションには、プロパティを複数行にわたって記述できます。プロパティは必ず正しいセクション内に配置する必要があり、そうでない場合は無視されます。

もし追加したいセクションが存在しない場合はそのセクションを追加してください。その際、別のセクションのプロパティの間に新しいセクションを追加しないよう注意してください。新しいセクションはファイルの末尾に追加することを推奨します。

プロパティは名前と値から構成されます。名前と値は等号記号(=)で区切られます。名前は等号記号の左側に配置されます。等号記号(=)やセミコロン(;)は予約済みの文字であるため含めることはできません。値には任意の文字を入力します。行の先頭にあるセミコロン(;)はコメントであることを示し、コメント行は無視されます。名前と値の前後にある空白文字は無視されます。

プロパティには、WiseMo.ini ファイルで定義されていない場合に使用されるデフォルト値がそれぞれ設定されています。

ini ファイル設定の具体例として、DTLLOGKB が[DTL]セクションに設定されています：

```
[DTL]
DTLLOGKB=5000
```

DTLLOGKB のデフォルト値は 500 で、これは DTLLOGKB が指定されていない場合に適用される値です。

WiseMo.ini ファイルの設定は通常、変更を有効にするために WiseMo モジュールの再起動が必要です。

2.0 ゲストおよびホスト用 WiseMo.ini 設定項目

セクション	項目名	デフォルト値	単位	説明
DTL	DTLLOGKB	500	KB	WiseMo サポートログのサイズ。WiseMo は追加のログ履歴を記録するためにこのサイズを拡張するよう指示する場合があります。ストレージを節約するため、このサイズは例えば 100 (つまり 100KB) といった数値に縮小することも可能です。
DTL	TimeOutTimes	10	Integer	送信操作が試行される回数。 最小値: 0 最大値: 50
DTL	MinTimeOut	1 tick = 0.055s	Tick	データパケット受信確認の受信に必要な最小時間 (ティック単位: 1 ティック = 1/18.2 秒)。 最大値: 180 tick = 9.9 秒
DTL	MaxTimeOut	10 ticks = 0.55s	Tick	データパケット受信確認の受信に必要な最大時間 (ティック単位: 1 ティック = 1/18.2 秒)。 最小値: 10 (=0.55 秒) または MinTimeOut 最大値: 65535 (=1 時間)

セクション	項目名	デフォルト値	単位	説明
DTL	CallRetry	10	Integer	呼び出し操作が試行される回数。リトライは 1 回につき CallTimeout/18.2 秒間行われます。 最小値: 1 最大値: 65535
DTL	CallTimeout	3*18 ticks = 3s	Tick	呼び出し操作のタイムアウト時間（ティック 単位：1 ティック = 1/18.2 秒） 最小値: 1 (=0.055 秒) 最大値: 65535 (= 1 時間)
HTTP	ProxyOverrule	(空欄)	Text	ホストやコネクションサーバーへの送信で「HTTP カプセル化接続」を使用する際に、利用する HTTP 形式プロキシの「DNS 名:ポート番号」。 設定例: squid.example.local:3128 設定例: proxy.example.local:8080 v20.00(2026067)より前のバージョン: 「HTTP でカプセル化」にチェックが入っている「TCP」接続プロファイル、および HTTP 有効化されたコネクションサーバー経由で接続する際の「myCloud」プロファイルにのみ適用されます。

上記テーブルに記載されているタイムアウト時間とリトライ設定に関する補足説明：ネットワークパケットが送信されると、受信側はパケットの正常な受信を確認するため **ACK** 応答を返します。タイムアウト値は、パケット送信時からその **ACK** 応答を受信するまでの時間を指定します。この値は動的な値であり、接続品質や帯域幅によって変動します。**MinTimeOut** と **MaxTimeOut** は、このタイムアウト値の許容範囲を定義するものです。

指定された時間制限内に **ACK** 応答が受信されない場合、送信操作がリトライされ、パケットが再送信されます。送信したどのパケットに対しても **ACK** 応答が受信されない場合、接続が切断されたと判断されます。この原則は呼び出し操作にも適用されます。

ティックとはコンピューターシステムにおける伝統的な時間単位です。1 ティックは 1/18.2 秒、または 0.055 秒に相当します。

3.0 ゲスト用 WiseMo.ini 設定項目

セクション	項目名	デフォルト値	単位	説明
GUEST	CacheSize	20	MB	画面キャッシュのサイズです。

4.0 ホスト用 WiseMo.ini 設定項目

セクション	項目名	デフォルト値	単位	説明
HOST	UseWinSysAccountFix	0	BOOL	Windows ユーザーやグループを選択するシステムダイアログが内部エラーで失敗するという、Windows のまれなバグを回避するには「1」に設定してください。
HOST	UsingHostID		Text	これはホストが実際に使用しているホスト ID を示す出力専用の値です。
HOST	SkinDeviceID		Text	Windows ホストに定義済みスキンを強制適用（バージョン 18 ビルド 20056 以降）
HOST	Region	1	BOOL	0 に設定すると画面変更のインテリジェント検出機能を無効化します。

セクション	項目名	デフォルト値	単位	説明
HOST	ScreenSearchFirstMax	125	Integer	画面の変更内容を検出して送信するスレッドが含まれています。このスレッドは、タイミングパラメータによって制御されます。このパラメータは検出された変更の経過時間や、送信バッファをフラッシュ（一括送信）するまでに新たな変更を待機する、最大時間を決定します： ・最初に検出された変更は、ScreenSearchFirstMax ミリ秒以内に発生している必要があります（デフォルトでは 125 ms）。 ・最後に検出された変更は、ScreenSearchLastMax ミリ秒以内に発生している必要があります（デフォルトでは 50 ms）。 ・ループ処理は、新たな変更が検出されない場合でも最大 ScreenSearchMax ミリ秒まで検索を継続します（デフォルトでは 300 ms）。 これらのパラメータは、WiseMo.ini ファイルの [HOST] セクションで、以下のキーを使用して設定できます（値はミリ秒単位です）： [HOST] ScreenSearchFirstMax = 125 ScreenSearchLastMax = 50 ScreenSearchMax = 300 （ビルド 2025183 以降）
	ScreenSearchLastMax	50	Integer	
	ScreenSearchMax	300	Integer	
LOG	SEQUENCE	0		WiseMo ログスタンプ。数値はログイベントのシーケンス番号を示します。